

令和5年度 県立神戸工業高等学校 学校評価シート(1月) 集計表

No	教育目標	分掌	実践目標	取組内容と評価指標	取組結果	人数					平均	増減	9月の平均	増減	昨年1月の平均
						A	B	C	D	計					
1	基礎学力を向上させ、個性を伸張する	教務	教育課程	カリキュラム委員会を年6回以上開催し、本校の特性を生かした教育課程の編成を行う。	カリキュラム委員会を5回開催した。教育課程の編成のほか、新教育課程について次年度以降の確認事項を依頼した。	31	16	0	0	47	3.66	+ 0.06	3.60	+ 0.04	3.62
2		生徒指導	安心して学べる環境づくり	生徒指導部による校内巡視に加えて、先生方のご理解ご協力の下、各学年で巡回指導や有事の際は特別巡視週間を設けて、問題行動抑止に努めた。	必要に応じて学年団を中心に巡視を強化していただき、問題行動未然防止にご協力いただいた。平常の生徒指導当番も多くの先生方にご協力いただき、実施ができた。一方で本年度より分掌体制が変わったことで、生徒指導部としては昨年度と比較をして校内外の巡視が十分できなかった。	27	15	5	0	47	3.47	- 0.25	3.72	- 0.35	3.82
3		進路指導	キャリア教育の推進	各学年と連携し、キャリアノートを実際に使用したキャリア教育を年間2回実施する。	学年によっては差はあるが、3学年を中心にキャリアノートを積極的に活用したキャリア教育が行えた。	15	24	7	2	48	3.08	+ 0.21	2.87	+ 0.66	2.42
4		保健	規則正しい生活習慣	昇降口で、生徒への挨拶・声かけを行う。	おおむね挨拶・声かけをすることができた。	33	12	3	0	48	3.63	- 0.18	3.81	- 0.22	3.85
5		図書情報	ICTの授業での活用	生徒用タブレットや、教育用クラウドのIDの管理を円滑に行い、授業での活用のサポートを行う。	図書室の充電保管庫の管理や、貸し出し簿によって、タブレットの貸し出しがスムーズに行うことができています。	33	9	4	0	46	3.63	+ 0.15	3.48	+ 0.03	3.60
6		学科	資格・検定の補習の実施	建築:各種検定に応じて全体・個別補習を実施し資格取得をサポートする。 機械:技能検定・特別教育等のために個別補習や講習会を行っている。 電気:電気工事士取得に向け、始業前、放課後の時間を利用して行う。 情報技術:放課後を活用し、国家試験や検定試験の受験を目指して補習を希望する生徒に実施する。	建築:始業前、放課後を活用し、計算技術検定、建築大工技能検定、2級建築施工管理技術検定補、基礎製図検定の個別補習を行ない資格取得のサポートを充実できた。また、夏季休業中に兵庫工業が実施している玉掛・研磨と石・クレーン(5t未満)の特別教育講習に参加し資格取得させることができた。 機械:資格取得のため始業前、放課後に希望者には補習を行えるようにした。初級CAD検定8名、基礎製図検定1名合格する事が出来た。 電気:始業前、放課後、長期休業中を利用し、第2種電気工事士取得に向けての補習を行った。結果、上期:2名合格、下期:8名学科合格し実技の結果待ちである。 情報技術:検定試験や国家試験を受験する生徒で補習を希望する生徒に対して実施した。	40	9	1	0	50	3.78	+ 0.07	3.71	+ 0.20	3.58
7		学科	わかりやすい授業の展開	建築:生徒の理解度を把握し、適宜補助教材・資料、パワーポイント資料を作成、資料の配布やプロジェクターでの表示などをおこない、理解度を深める。 機械:生徒の学力に合わせ副教材・プリントを利用して、基礎的な知識の向上をはかる。 電気:教科書以外に自作プリント等を活用し、基礎基本から応用まで個々に応じた指導を行う。 情報技術:効率的・効果的な授業展開が可能となるよう、ICTを適切に活用した授業を実施する。 国語:ICTの活用により、図や写真などを提示し、より具体的に内容を考えさせる。 地歴公民:生徒の資質・能力を育むために必要な問いの研究と適切な資料の活用を心がける。 数学:生徒の実態に合わせ、小・中学校の復習から徐々にステップアップできるように授業を展開する。 理科:ICT機器を積極的に活用し、基礎基本を重視するとともに、科学的な思考力・判断力が身につくような授業展開を図る。 保健体育:生徒の実態を把握し、段階的な授業を展開する。また、ICT機器等を活用し、学習に対する意欲を高められるようにする。 英語:生徒の理解度に応じ適宜プリントやICT機器を活用して生徒の意欲を引き出す授業を展開し、基礎学力の向上を図る。 家庭:映像や実習と座学を組み合わせ、生徒の実態に即した教材をプリントにまとめて取り組みやすくする。	建築:教員間で生徒理解の度合いを共有し、授業の主担当を中心に様々な資料の作成やブラッシュアップが行え、各生徒に寄り添った授業展開が行なえた。 機械:副教材・プリントを使用し生徒に分かりやすく基礎的な知識の向上を図る事が出来た。 電気:ICT機器を利用しわかりやすい授業の展開や、自作プリントを利用して基礎・基本から応用まで個々に応じた指導を実施、基礎学力、学習意欲向上等に務めることができた。 情報技術:授業内容を分かりやすく伝えるためにICT機器を積極的に活用し授業を実施した。 国語:図や写真などを提示し、より具体的に内容を考えさせることが概ねできた。 地歴公民:意欲的に取り組み、研究協議を行うなど教科内で研鑽を深めた。 数学:小・中学校の復習を交えながら、生徒の実態に合わせた授業を展開することができた。 理科:生徒の実態に合わせて基礎基本を中心に、ICT機器等を活用しながら科学的な視点を身に付けることができた。 保健体育:種目の選択制を行い、興味・関心がもてるような授業を展開した。また、生徒の実態に応じた授業を展開することができた。場面に応じてICTを活用し、意欲を高められることができた。 英語:できている授業もある。今後も現状に満足せず、新しい取り組みや機器活用方法に積極的にアンテナを張っていきたい。 家庭:映像や実習と座学を組み合わせ、生徒の実態に即した教材をプリントにまとめて取り組みやすくすることができた。	32	17	1	1	51	3.57	+ 0.02	3.55	- 0.07	3.64

No	教育目標	分掌	実践目標	取組内容と評価指標	取組結果	人数					平均	増減	9月の平均	増減	昨年1月の平均
						A	B	C	D	計					
8	基礎学力を向上させ、個性を伸ばす	学年	基礎学力向上のため、生徒の状況把握	1年:教科担当より情報を収集し、学年会議で個別に必要な取り組みを協議する。 2年:SHR等を活用して生徒の学力を把握し、学習意欲の向上を図る 3年:家庭との連携を密にするとともに、学年会議で情報を共有し、協力して対応する 4年:学年団や教科担当との密な情報共有により、生徒個々に必要な取り組みを実施する。	1年:学年会議を行い生徒情報を共有し生徒の状況把握に務めた。放課後を活用して資格取得の学習に取り組むことができた。 2年:SHR時に簡単な基礎学習を行い、苦手教科の克服を目指した。基礎学力の向上に伴い、資格取得に組む生徒が増えた。 3年:家庭との連携を密にして生徒の状況を共有し、苦手科目にも前向きに取り組むように学年全体で取り組むことができた。 4年:普段から学年団や教科担当と密に情報を共有し、資格取得や進路活動に向けた対策に取り組んだ。	24	20	6	1	51	3.31	- 0.18	3.49	- 0.17	3.48
9	他者と協働する能力を育み、社会性の涵養をはかる	総務	学校行事の実施	各行事が円滑に実施できるよう計画・準備を進める。	コロナ禍も明け、各行事を円滑に実施できた。	35	11	2	0	48	3.69	+ 0.06	3.63	+ 0.06	3.63
10		生徒指導	スマホ・SNSの適切な利用とコミュニケーション力の向上	インターネットやスマートフォンの適切な利用については専門家と連携しながら情報をアップデートする必要がある。(本年度は10月20日に講演会を実施予定)	専門家を招聘して、講演会を実施した。SNS利用の危険性について必要な知識を得ることができた。	34	13	0	0	47	3.72	+ 0.23	3.49	- 0.01	3.73
11		生徒指導	規範意識の向上	生徒会の取組みとして、目標の設定や生徒への呼びかけ、校内掲示等を行う。	1月末実施の臨時生徒総会でスマホ使用に関するスローガンを提示し、校内掲示する見通しである。	24	19	4	0	47	3.43	- 0.08	3.51	+ 0.01	3.42
12		進路指導	職業観の育成	進路指導部として企業や産業を知るための会社見学や企業セミナー(合同ガイダンス等)を企画・実施する。	12月に進路指導部の計画による会社見学会を初めて実施することができた。 企業セミナー(進路ガイダンス)は3月に実施することになっている。	28	19	1	0	48	3.56	+ 0.08	3.48	+ 0.20	3.36
13		学科	実習で培う協働	建築:建築技術者として必要なコミュニケーションスキルが身につくように高学年でグループ実習を実施する。 機械:工具の整理・実習室の清掃・安全確認をグループで行っている。 電気:班を形成し、班の一員としての責務を果たせるよう取り組む。 情報技術:グループでの分担や協働による作品の製作に取り組む。	建築:実習内容に即して生徒間での様々なコミュニケーションを取りやすいように授業を行うことができた。また、共に学ぶ意識、協力し合う意識を芽生えさせる班構成を行うこともできた。 機械:グループで行うことで、工具の整理・実習室の清掃・安全確認を個人で行うよりさらに、性格、確実に行う事が出来た。 電気:実習内容によりグループワークを実施、役割分担等生徒自ら決め、班員が協力して実習を行うことができた。 情報技術:コミュニケーションをとりながら、協力して作品の製作に取り組んだ。	38	10	2	0	50	3.72	+ 0.06	3.66	- 0.05	3.77
14	学年	学校行事におけるクラスの協働	1年:行事の趣旨を丁寧に説明し、一人一人の役割を理解させ、協力して信頼関係を築く。 2年:担任と生徒、生徒間の相互理解・信頼関係の醸成 3年:学校行事を通して、クラスや学年内で協力する精神を養う。 4年:各行事において、個々の生徒に役割を持たせ、協力して取り組ませる。	1年:学校行事の趣旨を一人一人が理解し、お互いに協力して信頼関係を築くことができた。 2年:HR行事や遠足等を活用し、教師との信頼関係や生徒通しの相互理解ができた。 3年:おおむね協力する精神を養うことができた。 4年:学校行事において、生徒同士協力し責任を持って取り組むことができた。	27	21	2	1	51	3.45	- 0.06	3.51	- 0.24	3.69	

No	教育目標	分掌	実践目標	取組内容と評価指標	取組結果	人数					平均	増減	9月の平均	増減	昨年1月の平均
						A	B	C	D	計					
15	人権を尊重し、命を大切に する心を育てる	総務	防災教育・避難訓練	火災・津波を想定した避難訓練を2回実施し、生徒・職員の防災意識・危機管理意識の向上を図る。	5月に火災を想定した水平方向避難、1月には地震・津波、高潮を想定した垂直方向避難訓練を実施した。各訓練想定に変化をつけることでマンネリ化を防ぎ、生徒・教職員の防災対応力と危機管理意識向上を図ることができた。	33	14	1	0	48	3.67	±0.00	3.67	- 0.20	3.87
16		生徒指導	人権教育(いじめ防止や心の教育)	いじめ防止や心の教育等、人権意識を高める内容の講演会や、人権LHR(年1回以上)を行う。	SNSによる人権侵害や危険性について、専門家を招聘して講演会や兵庫県人権啓発協会制作の教材鑑賞を通して、SNSを安全に人権に配慮して利用するかを学ぶことができた。また、各学年の人権教育担当者が人権HRを企画して、現代の人権課題や解決方法の糸口、生徒へ人権の大切さや必要性を感じてもらうことができた。	35	11	1	0	47	3.72	+ 0.08	3.64	+ 0.36	3.36
17		保健	健康教育	健康教育の充実を図るために、保健だよりを月に1回(年11回)発行する。	養護教諭がいるときは定期的に発行することができた。	23	22	2	0	47	3.45	- 0.34	3.79	- 0.53	3.98
18		保健	心の健康	学年・科・キャンパスカウンセラーとの連携を密に行い、生徒や保護者の個々の状況に応じた適切な対応に努める。	学年とキャンパスカウンセラーとの橋渡しができた。	28	18	1	0	47	3.57	- 0.07	3.64	- 0.23	3.80
19		図書情報	情報モラルの啓発及び定着	各部や学年と連携し、生徒の情報モラルに対する意識を高めさせる。	生徒のIDやパスワードの管理、クラウドサービスの利用について学年と協力して行った。	29	14	3	0	46	3.57	+ 0.19	3.38	+ 0.08	3.49
20		学科	事故防止に向けた安全教育の実施	建築:各実習授業時に使用材料・工具等の取扱いに触れながら安全教育を実施する。 機械:各学年実習の授業で安全心得などの冊子を使い事故の事例や安全教育を行っている。 電気:安全な技能活動の習得を目指し、点呼時に本時の危険個所の注意喚起を促す。 情報技術:作業ごとに工具などの正しい使い方や注意すべき事柄を説明し、安全に留意して作業することを徹底する。	建築:各学年の実習で実際に機械・工具・材料を扱いながら安全教育を毎時間行うことができた。 機械:事故の事例や安全教育を行い、ケガや事故防止につとめ実習安全に努めた。 電気:毎時間の最初に危険個所の注意喚起を促し事故防止に努めた結果、事故件数0であった。 情報技術:作業ごとに工具の正しい使い方を説明し、安全に作業を行うことができた。	34	14	1	1	50	3.62	- 0.01	3.63	- 0.08	3.70
21	学年	修学旅行・遠足・体育祭等学年として協力する態度の育成	1年:自他の違いを認め、相手の思いや決まりの大切さに気づき、考えながら行動させる。 2年:行事を通して、高校生としての自覚と連帯感・一体感をもたせる 3年:修学旅行や各行事を通して、人権の尊重と命の大切さについての意識を高める。 4年:各行事を通して、人権の尊重と命の大切さを学ぶ。	1年:体育祭では、持てる能力を存分に発揮することができた。校外学習や会社見学では、命の尊さと働く人々の姿に触れ、豊かな人間形成を育む良い機会となった。 2年:体育大会等に積極的に参加しクラス・学年としての連帯感を高めることができた。 3年:人権の尊重と命の大切さについて意識を高めることができた。 4年:各行事を通して生徒同士協力して取り組む中で、人権を尊重する意識を高めることができた。	33	16	1	1	51	3.59	+ 0.05	3.54	- 0.14	3.73	
22	学校運営	教務	研究授業・公開授業	公開授業週間を年1回実施する。研究授業を年5回実施し、研究授業後に意見交換などの場を設定する。	9月の末に公開授業週間を実施した。研究授業を実施された教科は授業後意見交換を行っていた。	26	21	0	0	47	3.55	- 0.06	3.61	- 0.02	3.57
23		教務	「主体的・対話的で深い学び」の実現	研修会などを通して、本校の実情に沿った内容を見つめていく。	本年は教務内規・シラバス・年間指導計画及び、振り返りシートの内容で研修会を実施した。	31	15	1	0	47	3.64	+ 0.40	3.24	+ 0.57	3.07
24		生徒指導	人権研修会の実施	外部講師を招いて人権に関する職員研修会を年1回以上行い、様々な人権課題に対する知見を広め、意識啓発を図る。	「SNSによる人権侵害」をテーマにした講演会や兵庫県人権啓発協会制作の教材鑑賞を通して、人権教育に役立てた。	30	15	2	0	47	3.60	+ 0.08	3.52	- 0.07	3.67

No	教育目標	分掌	実践目標	取組内容と評価指標	取組結果	人数					平均	増減	9月の平均	増減	昨年1月の平均
						A	B	C	D	計					
25	学校運営	保健	AED・心肺蘇生法	教職員応急手当講習会(年1回)を実施する。	実施することができた。	40	8	0	0	48	3.83	- 0.06	3.89	- 0.06	3.89
26		保健	感染症対策	教室や実習室の消毒や換気の徹底を図る。	新型コロナが5類に移行してからはあまりできなかった。	11	23	12	2	48	2.90	- 0.52	3.42	- 0.93	3.83
27		総務	学校案内・広報活動	従来の学校案内・PR等と併せて中学校教員向け説明会を実施して学校見学やオープンハイスクール参加者を集め、本校の広報活動を進める。	学校案内・PR動画の更新、6月から11月まで毎週中学校教員向け説明会を実施した。オープンハイスクールでは授業見学や体験を主に実施することができ、随時個別の学校見学に対応している。	31	15	2	0	48	3.60	+ 0.01	3.59	- 0.14	3.74
28		教務	校務支援システム	研修会を年2回実施し、システムに入力したデータの活用方法と運用について理解してもらう。	システムに入力したデータの活用方法を運用についての研修会を2回実施した。	30	15	2	0	47	3.60	+ 0.22	3.38	- 0.09	3.69
29		生徒指導	立ち番や巡回指導の実施	担任教師以外の職員による校門指導を組織すると共に、生徒への声掛けや挨拶を、職員からも意識して行うようにする。	先生方のご協力により、所期の目標を達成できた。	37	9	1	0	47	3.77	- 0.03	3.80	- 0.05	3.82
30		生徒指導	特別指導の情報共有と連携	特別指導事案を職員打合せ等で情報共有するとともに、必要に応じて担当者会議を行い、情報共有と連携指導が行えるようにする。	その都度、関係部署と相談の上、対応し、必要に応じて全体で情報共有することができた。	25	16	4	2	47	3.36	- 0.17	3.53	- 0.37	3.73
31		生徒指導	生徒会活動(生徒会行事と部活動等)の実施	生徒会役員や他の生徒たちが活躍できる生徒会行事を、年3回以上行う。	4年振りの体育祭開催をはじめ、新入生歓迎行事、生徒総会、球技大会など、様々な活躍の場を作ることができた。	38	8	1	0	47	3.79	+ 0.15	3.64	- 0.01	3.80
32		進路指導	進路講演会・ガイダンスの実施	全体に対する進路講演会および進路ガイダンスを年1回実施する。	12月に進路講演会を実施することができ、生徒から自発的に質問や意見交換が行われ有意義な時間になった。進路ガイダンスは予定通り3月の実施で計画している。	30	15	2	0	47	3.60	+ 0.06	3.54	+ 0.16	3.44
33		保健	身体計測・諸検診の滞りない実施	健康診断を円滑に実施し、受診報告のない生徒については、2学期に再度受診勧告を行い受診を促す。	健康診断を滞りなく行うことができた。	39	9	0	0	48	3.81	+ 0.09	3.72	+ 0.05	3.76
34		図書情報	ICTの円滑な活用のサポート	校務用パソコン、NASの管理を日々行い、校務が円滑に行えるようにサポートを行う。	校務用パソコンの更新を円滑に行うことができた。また、不調なパソコンに対するサポートも円滑に行うことができた。	35	10	2	0	47	3.70	+ 0.01	3.69	+ 0.10	3.60
35		図書情報	学校Webページの活用	多くの職員にWebページに書き込んでもらえるような体制をつくり、生徒にもっと見てもらえるような学校Webページを目指す。	各部、科にもWebページへの書き込み権限を与え、行事報告等を書き込んでもらえる体制を整えた。	33	12	2	0	47	3.66	+ 0.26	3.40	+ 0.08	3.58
36		学年	学校行事・LHRの滞りない運営	1年:学校行事や年間LHR計画に沿って計画的に実施し、充実感、達成感を共有する。 2年:学校行事やLHR計画を通じて、楽しい高校生活が送れるように配慮する。 3年:年間行事計画に沿って、修学旅行や進路に向けた活動を滞りなく実施する。 4年:年間行事計画に沿って進路などのLHRを計画的に実施する。	1年:年間行事計画に沿って計画的に実施できた。 2年:LHR時に学年発案のゲーム大会(紙飛行機ダーツ大会・ドッチビー・風船バレー等)を行い楽しい高校生活を体験させた。 3年:修学旅行や進路に向けた活動を滞りなく実施することができた。 4年:年間行事計画に沿ってLHRや学年行事や学校行事を実施できた。	31	17	2	1	51	3.53	±0.00	3.53	- 0.16	3.69